

まちの話題

丹波篠山の「ヒト」にClose-up

クローズアップ!

特集

タウンレポート

HOIとく

情報ピックアップ

市政リーダー

インフォメーション

おでかけ相談

はぐくみ

街かどリポート

まちの話題



やってきた! 黒枝豆販売解禁 (10月10日)

丹波篠山黒枝豆販売解禁セレモニーが京町の畑で行われました。今年高温少雨で生育が遅れ、例年より数日遅れの解禁となりました。この日は、関係者が黒枝豆を詰めた樽をたたき「樽開き」で、旬の到来を喜び合いました。また、今回のセレモニーで用いた樽の更新を行い、篠山産業高校電気建設工学科建設コースの生徒たちが、授業の一貫として取り組んでくれました。



四季の森音楽祭 (10月12日)



初の試みとなった屋外ライブ「四季の森音楽祭」。キッチンカーも来ており、観客はおいしい食べ物と一緒に音楽を堪能。雨が降る瞬間もありましたが、7つのアーティストが観客に手拍子を求めるなどして、会場を大いに盛り上げました。

ワラワラ市からの留学生訪問団 (10月9日~20日)



米国・ワラワラ市から交換留学生訪問団を受け入れました。訪問団の皆さんは市内でホームステイをしながら、大阪・関西万博観光、竹細工体験、丹波焼作陶体験、警察署や消防署、認定こども園や高校の訪問、黒枝豆の収穫体験などを通して交流を深めました。

ANAグループが黒枝豆の収穫作業を体験 (10月15日)



大手航空会社の全日本空輸株式会社(ANA)の皆さんが、泉地区で黒枝豆の収穫や出荷作業を手伝われました。これは、地域貢献活動の一環として、(株)小田垣商店と協同で毎年行われているもので、今年で5年目となります。この日は、伊丹空港に勤務されている客室乗務員をはじめ航空旅客係の皆さんら約50人が参加されました。今回収穫する黒枝豆は、6月14日にANAグループの皆さんと小田垣商店とが連携して植え付けられたもので、社員の皆さんは、泉地区営農組合の方々に手ほどきを受けながら、黒枝豆の刈り取りや葉落とし、不要な枝の切り取り作業などを行われ、黒大豆を商品にする一連の作業に取り組みました。



ホッケークラブ「HC HYOGO HEARTS」中学生男子チームが2冠達成!

「第26回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会」が10月25日・26日の両日、朝日総合運動場(福井県)などで行われ、HC HYOGO HEARTSの選手のみで構成された兵庫県男子チームが初優勝。夏の全日本中学生ホッケー選手権大会(6人制)に続き、2冠を達成しました。大会初戦の大阪府戦は7-2で快勝するも、続く準々決勝の福井県戦では、両者一歩も譲らず一進一退の攻防が続き1-1の同点に。勝負はシュートアウト(ゴールキーパーとの1対1のプレー)戦となり、ゴールキーパーの今井優選手が好セーブを見せ、激戦を制しました。準決勝の島根県戦は2-1で僅差の試合を制すると、決勝戦の広島県戦でも2-1と勝利し、全26チームの頂点に輝きました。大会を振り返り、山本新太主将は「全中大会で優勝したことで、そのプレッシャーを感じながらも2冠を達成することができ、とてもうれしくホッとしています」とにっこり。岡花宏明監督は、「年に2回も全国制覇を達成でき、感謝の気持ちでいっぱいです。夏の大会では登録外だった選手も多く出場しました。中学校からホッケーを始めた選手が多い中、選手自身が主体的に状況判断と実践を重ね続けたことが勝利につながりました」とその喜びを話しました。

箱根駅伝に向け、城西大・小田伊織選手、神奈川大・塩田大空選手が力走!



市出身で城西大学陸上競技部に所属の小田伊織選手(3年)が、学生3大駅伝の幕開けとなった第37回「出雲全日本大学選抜駅伝競走」(6区間45.1km)に出場。4区(6.2km)を区間9位の粘りの走りで、タスキをつなぎました。また、第57回「全日本大学駅伝対校選手権大会」(8区間106.8km)では、1区(9.5km)を担当。先頭集団の中で積極的な走りを見せるも後半に集団から離れ、14位でのタスキリレーとなりました。クライマックスとなる箱根駅伝に向けて、1年時に8区を走った小田選手は「2年分の思いを背負って箱根路を走ります」とその活躍を誓いました。市出身で神奈川大学陸上競技部に所属する塩田大空選手(4年)が第102回箱根駅伝予選会に出場。神奈川大学が全体の7位に入り、3年連続56回目の本戦出場を決めました。予選会で、後ろの集団を引っ張った塩田選手はレース中盤に、仲間2人が転倒するアクシデントが起きても冷静に集団を引っ張り、ペースを刻み続け、予選会突破に貢献されました。同部で副主将を務める塩田選手は「最初に最後の箱根は、シードを目標に楽しく悔いなく走り抜きます!応援よろしくお願いします」と力強く話しました。

農業クラブ全国大会で優秀賞受賞



10月21日から23日まで山梨県で開催された第76回「日本学校農業クラブ全国大会」。兵庫県代表として農業鑑定競技の分野「生活」に出場した板谷由衣さんが優秀賞に選ばれました。大会は、衣食住や農業の専門知識を問う40問が出題。74人の中から優秀賞受賞者の1人に選ばれました。「昨年も全国大会に出場しましたが、入賞を果たせず悔しい思いをしたので、今回は入賞することができ、とてもうれしいです」と笑顔で話しました。

日本スポーツマスターズ2025 愛媛大会(空手道競技) 出場



多鹿上じさんが予選大会となる兵庫県空手道選手権大会 マスターズの部(形・60代の部)で見事優勝し、愛媛県で開催された全国大会に出場されました。南新町の修誠館で鍛錬されており、空手道歴は30年にもなる多鹿さん。「仲間に恵まれ、ここまで続けることができた。今後も大会に出続けることを目標に頑張りたい」と抱負を話しました。

災害時に備えて (11月8日)



今田町上小野原自治会で「誰ひとり取り残さない避難訓練事業」を実施しました。今田地区での実施は初。多くの住民が参加し、車いす体験や毛布担架づくり、障がいのある人の模擬体験などを行い、災害時に住民がお互いに協力して支え合うことの大切さを学びました。

丹波木綿展示会 (11月8~9日)



農家高齢者創作館(栗柄)で活動されている丹波木綿保存会(藤本真弓代表・15人)が、「ぬくもりの丹波木綿展示会」を鳳凰会館(河原町)で開催されました。会場には反物や着物など約80点が展示され、参加者は丁寧に仕上げられた作品を鑑賞しました。

特産「山の芋」収穫本格化 (11月11日)



特産「丹波篠山山の芋」が収穫の最盛期を迎えています。倉本地区の井貝敏夫さんの畑でも収穫が行われ、専用の棒を使って慎重に掘り起こしていました。また、JA丹波ささやま「山の芋センター」でも出荷作業が始まり、スタッフが箱詰め作業に追われていました。

古民家でコスプレ撮影 (10月22日)



コスプレイヤーが撮影を楽しみ、宿泊できるゲストハウス「Mashiro(マシロ)」が大山地区にオープン。関係者に公開されました。これは、同地区で地元と協力して、森のフォトスタジオを展開されてきた(株)カケルタンバ(土田翔太代表)が新たな撮影場所として、古民家を改装。土田代表は、「利用した方が、丹波地域の観光地を巡る拠点にしたい」と話されました。

きょうもまあるいの 11月



★詳しくは、20ページをご覧ください。

有機給食・食育授業 (11月10日)



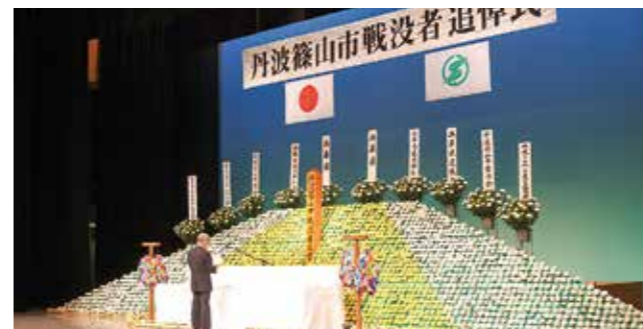
化学肥料や農薬を使用せず栽培されたお米が、学校給食に提供されました。児童たちは「おいしい!」と満面の笑みで頬張っていました。給食後は、生産者による食育授業が実施され、人や生きもの・自然環境みんなに優しい有機農業について楽しく学びました。

菊花展 (11月1日~16日)



「第1回篠山菊花展」(大正14年)から数えて100年目の節目となった今年の菊花展。250年余りの歴史を持つ門外不出のお苗菊をはじめとする、400鉢以上の美しい菊が会場を彩りました。参加者は、菊花展スタッフによるお苗菊の由来や育て方の解説に耳を傾けながら、美しい菊を楽しみました。

戦没者追悼式 (10月29日)



田園交響ホールで開催された戦没者追悼式。丹波篠山市遺族会会長の石川英昭さんは追悼のことで「いまだに帰ることができない遺骨もある。平和の繁栄には尊い犠牲があることを忘れてはならない」と話し、記憶を継承することの決意を御霊にささげました。

「私の地元応援募金」の寄付 (11月4日)



明治安田生命保険相互会社から「私の地元応援募金」として61万2,000円をご寄付いただきました。寄付いただくのは今回で7回目。神戸支社の水嶋学市場統括部長は「丹波篠山がいつまでも元気な地域であることを願います」と話しました。

クラフトウィーク (10月25日~11月3日)



工芸の魅力にふれる10日間で、期間中は市内で活躍する工芸家の工房を訪ね歩くことができ、訪れた人は工芸家との交流を楽しみました。また、市内の工芸家が一堂に会するクラフトマーケットは、お気に入りの作品を見つけようと多くの人でにぎわいました。

長寿犬表彰式典 (10月29日)



狂犬病予防注射を接種済みで満17歳を迎えた犬の長寿を祝して開催された、長寿犬表彰式典。今年は33頭の犬が該当し、表彰状が飼い主に手渡されました。ステージに並ぶ長寿犬と飼い主の穏やかな表情から、共に歩んできた絆が感じられる、愛に満ちた式典となりました。